

# 日本語・ベトナム語・中国語における 漢語の対照研究序説

LE NGOC CHANH TIN

## 1. はじめに

周知の通り、ベトナムは千年以上中国の支配下に置かれ、漢語はその長い文化交流の歴史の中でベトナムに輸入され、ベトナムの言語に大きな影響を与えた。ベトナムは現在、漢字の刻された膨大な量の石碑等の遺物を残しており、それは漢語がベトナムに早い時期に入ってきたことを物語っている。東漢時代に漢字と漢語がかなり幅広くベトナムで使用され始め、6世紀終りから10世紀初にかけて、ベトナムで正式な文字になり、徐々にベトナム語に影響を与えていった<sup>(1)</sup>。漢語起源語彙は政治・経済・文化・社会などあらゆる学術分野で使用されている。現代ベトナム語の論説体の文章で使用される漢語の割合は、日常会話に比べて格段に高い。また、漢語起源語彙はベトナム人の意識に深く入り込み、ベトナム人の知的活動に強い影響を与えている。

ベトナム語の中の大部分の漢語はベトナム語化された上に、漢字は既に正書法として使われていない。そのため、現在、漢字はベトナム人日本語学習者にとって日本語学習の大きな障碍となっている。そこで、本稿では、日本語・ベトナム語・中国語における漢語の意味的・統語的属性を比較した上で、その初歩的考察の成果を述べ、ベトナム人日本語学習者が漢語を習得する際、あるいは日本人ベトナム語学習者が漢越語（漢越語はベトナム語が唐代より長安の音読の基礎に基づいて借用した漢語語彙である。長安の読音はその時の正式の読音（「官音」）である<sup>(2)</sup>）を学ぶ際の一助となるよう現代中国語と対照しつつ、意味的・統語的属性の異同について記述する。また、日本語・ベトナム語・中国語における同形漢語の意味と用法の変遷を明らかにするために個々の言語における古い意味・用法とも比較対照する。

以上を踏まえて本稿では、日本語・ベトナム語・中国語における漢語起源語彙について比較対照することにより、各言語における漢語起源語彙の特徴を明らかにすることである。

## 2.1 日本語・ベトナム語・中国語における漢語の収集と分類

まず、日本語・ベトナム語更には現代中国語における漢語の意味的・統語的属性についての変遷を明確にするために現代中国語で日常用いられる漢語のうち日本語でもベトナム語でも使われる同形漢語を選定して、比較対照のための分類方法を示す。

3種の辞典（『明鏡国語辞典』（2011）、『大辞林』（1989）、『広辞苑』（第五版）（1998））に基づいて日本語における漢語起源語彙を収集し、3種の辞典（*Đại từ điển tiếng Việt* 1999, *Từ điển tiếng Việt* 2010, *Từ điển tiếng Việt* 1998）に基づいてベトナム語における漢語起源語彙を収集する。その後、日本語においてもベトナム語においても次の条件をすべて満たして使われる同形漢語を対象とする。

- 日本語における同形漢語は3種の辞典（『明鏡国語辞典』（2011）、『大辞林』（1989）、『広辞苑』（1998））すべてに記載されていること。
- ベトナム語における同形漢語は3種の辞典（*Đại từ điển tiếng Việt* 1999, *Từ điển tiếng Việt* 2010, *Từ điển tiếng Việt* 1998）すべてに記載されていること。
- 現代日本語でも現代ベトナム語でも日常生活で使われていること。
- 実例があること。
- 現代中国語でも使われていること。

現代中国語でも使われていることに関しては、4種の辞典（『中国語辞典』（2002）、『中日辞典』（2002）、『現代中国語辞典』（1985）及び『应用汉语词典』（2000））を参考とした。

最後は日本語でもベトナム語でも使われる同形漢語の分類を現代語における漢語の意味と用法に基づいて行う。

上記の条件に基づいて日本語でもベトナム語でも使われる同形漢語を収集し、その後、現代語における漢語の意味と用法に基づいて以下のように大きく3つのグループに分けて整理した。

1. 日本語とベトナム語で意味が異なる例
  - 1-1. 日本語のみ中国語と類似している例
  - 1-2. ベトナム語のみ中国語と類似している例
  - 1-3. 日本語・ベトナム語とも中国語の一部の意味と類似している例
2. 日本語とベトナム語で意味が類似している例
  - 2-1. 中国語とほぼ同じであるが、日本語では新しい意味が発生している例

- 2-2. 中国語とほぼ同じであるが、ベトナム語では新しい意味が発生している例  
 2-3. 中国語とほぼ同じであるが、統語的には、異なる特徴を示す例  
 2-4. 中国語の一部の意味と類似している例  
 2-5. 中国語とほぼ同じであるが、日本語では音節の順序が異なっている例  
 2-6. 中国語とほぼ同じであるが、ベトナム語では音節の順序が異なっている例  
 3. 3言語とも意味が全く異なる例

以下は上記の条件を満たしている日本語でもベトナム語でも使われる同形漢語の一覧である。

グループ	日本語 (漢語)	ベトナム語 (漢越語)	中国語
1-1			
1-1-1	異議	Dị nghị	异议
1-1-2	意図	Ý đồ	意图
1-1-3	運転	Vận chuyển	运转
1-1-4	加速	Gia tốc	加速
1-1-5	監督	Giám đốc	监督
1-1-6	始終	Thủy chung	始终
1-1-7	充滿	Sung mãn	充满
1-1-8	女装	Nữ trang	女装
1-1-9	出港	Xuất cảng	出港
1-1-10	墜落	Trụy lạc	坠落
1-1-11	入港	Nhập cảng	入港
1-1-12	徘徊	Bối hồi	徘徊
1-1-13	平穩	Bình ổn	平稳
1-1-14	麻醉	Ma túy	麻醉
1-1-15	無縁	Vô duyên	无缘
1-2			
1-2-1	運動員	Vận động viên	运动员
1-2-2	温存	Ôn tồn	温存
1-2-3	階段	Giai đoạn	阶段
1-2-4	家族	Gia tộc	家族
1-2-5	謹慎	Cẩn thận	谨慎
1-2-6	結束	Kết thúc	结束
1-2-7	嚴重	Nghiêm trọng	严重
1-2-8	工事	Công sự	工事
1-2-9	合同	Hợp đồng	合同
1-2-10	指摘	Chỉ trích	指摘

1-2-11	想念	Tưởng niệm	想念
1-2-12	特派員	Đặc phái viên	特派員
1-2-13	人參	Nhân sâm	人參
1-2-14	帆布	Ban bố	帆布
1-2-15	勉強	Miễn cưỡng	勉強
1-2-16	迷惑	Mê hoặc	迷惑
1-2-17	用意	Dụng ý	用意
1-3			
1-3-1	健全	Kiện toàn	健全
1-3-2	手段	Thủ đoạn	手段
1-3-3	同情	Đồng tình	同情
1-3-4	訪問	Phỏng vấn	访问
2-1			
2-1-1	意見	Ý kiến	意見
2-1-2	適當	Thích đáng	适当
2-1-3	發展	Phát triển	发展
2-1-4	無理	Vô lý	无理
2-1-5	猶豫	Do dự	犹豫
2-2	結婚	Kết hôn	结婚
2-3			
2-3-1	關心	Quan tâm	关心
2-3-2	危害	Nguy hại	危害
2-3-3	混亂	Hỗn loạn	混乱
2-4			
2-4-1	爽快	Sáng khoái	爽快
2-4-2	不滿	Bất mãn	不满
2-4-3	練習	Luyện tập	练习
2-4-4	堅持	Kiên trì	坚持
2-5			
2-5-1	制限	Hạn chế	限制
2-5-2	食糧	Lương thực	粮食
2-6			
2-6-1	釋放	Phóng thích	释放
2-6-2	例外	Ngoại lệ	例外
3	丁寧	Đình ninh	丁寧 (叮咛)

## 2.2 同形漢語の意味・用法の比較

以上の同形漢語の意味と用法の変遷を明らかにするために個々の言語における古い意味・用法とも比較対照する。

ベトナム語と中国語における漢語の品詞の判別は困難であるが、日本語における漢語の品詞を区別することはそれ程困難ではない。よって、ベトナム語における漢語の品詞に関しては、*Đại Từ Điển Tiếng Việt* 1999、*Từ Điển Tiếng Việt* 1998、*Từ Điển Tiếng Việt* 2010 及び *Từ loại tiếng Việt hiện đại* 1999 の記述を参考としつつ、筆者の内省に基づき判断した。

中国語における漢語の品詞に関しては、『中国語辞典』(2002)、『中日辞典』(2002)、『現代中国語辞典』(1985) 及び『应用汉语词典』(2000) の記述を参考とした。

現代中国語で日常用いられる漢語のうち日本語でもベトナム語でも共通して用いられる同形漢語の考察・分析を通じて、中国語から日本語・ベトナム語への借用の過程として、以下のいくつかのパターンを導き出すことができた。

①現代日本語における漢語の意味・用法においては古代中国語に直接由来するパターンが最も多い(24語)。例えば、「異議」、「充満」、「出港」、「墜落」、「徘徊」などである。「異議」を考察してみよう。

### [中] 異議

「異議」という漢語は、元来、以下のように大きく2つの意味がある<sup>(3)</sup>。

#### 1. 他と異なった議論。不同意。異論。異見

例、「物無異議」(『顔氏家訓』(601-04)、蔡賢)

#### 2. 裁判に於て法官の意見が一致しないときは各其所見を申べて異議を為すことを得。但し異議は甲・乙・丙の三説を限とし、多数に依つて決を採る

例、「諸疑罪、各依所犯以贖論、疑獄、法官執見不同者、得為異議、不得過三」(『唐律』(652)、断獄、疑獄)

1は7世紀初には用いられており、現代でもまだ用いられる。

例、「我们没有异议」(我々には異議がない)

2は7世紀中には用いられたが、現代では用いられない。

### [日] 異議

日本語に借用されると、「異議」は以下のように大きく2つの意味がある<sup>(4)</sup>。

#### 1. 他と違った議論や意見。また、相手の期待したのとは反対の意志を表わすこと。

異論。異存。

例、「おもひおもひ異議まちまち也」(『平家』(13世紀前)七・返牒)

2. 法律用語。

イ. 法律上の効果を生じようとする他人の行為に対して反対または不服の意思を表示すること。

例、「債務者が異議を留めずして前条の承諾を為したるときは」(『民法』(明治二九年)(1896)四六八条)

ロ. 裁判所その他の国家機関の処分に対する反対または不服の意思表示。

例、「否らざるときは書類の送達なしと雖も異議を申立ることを得ず」(『刑事訴訟法』(明治二三年)(1890)一八条)

1は古代中国語の「異議」の1と同様であり、13世紀前半には用いられており、現代でもまだ用いられる。

例、「異議を唱える」

よって、現代日本語の「異議」の意味は古代中国語の「異議」の1に由来すると考えられる。

2イと2ロは法律分野で明治時代に用いられたが、現代では用いられない。

[越] Dị nghị (『異議』)

ベトナム語の古い用法に関しては、残念ながら Rhodes (1651)、HTC (1894-95) には見えない。現代ベトナム語の dị nghị は Bàn tán với ý chê trách, phản đối (叱責の意図、反対の意図をもって議論する、異議を唱える) という意味で用いられる。

例、Dân làng dị nghị về chuyện ấy (村中がそのことについて責め立てた)

現代ベトナム語の dị nghị は「叱責する。責める」のような用法が発生して、結果としては、「非難する」という意味が発生してきたと考えられる。

次に多いのは新しい意味で用いられるパターンである(13語)。例えば、「運転」、「運動員」、「温存」、「階段」、「迷惑」、「用意」などである。「迷惑」を考察してみよう。

[中] 迷惑

「迷惑」という漢語は、元来、以下のように大きく3つの意味がある<sup>(5)</sup>。

1. 路にまよふ。

例、「迷惑失道」(『孔子家語』(成立年代未詳)、執轡)

2. 心がまよひまどふ。

例、「士卒迷惑」(『六韜』(魏晉時代に成立)、豹韜、鳥雲山兵)

## 3. まどはす。

例、「縫衣淺帯、矯言僞行、以迷惑天下之主」(莊子、盜跖)

1は現代では用いられないが、2、3は現代でもまだ用いられる。

例、「听了她的话、他心理迷惑起来」(彼女の話の聞いて、彼はわけがわからなくなった)、「花言巧语迷惑人」(甘言で人を惑わす)

## [日] 迷惑

日本語に借用されると、「迷惑」は以下のように大きく3つの意味がある<sup>6)</sup>。

1. どうしてよいかわからないで途方にくれること。困窮すること。戸惑うこと。

例、「皇居になれざるが故に心迷惑す」(『平家5』(13世紀前))

2. ある行為によって、負担を感じ、不快になること。また、そのさま。

例、「さぞ花松殿は、ご迷惑に思しめさうずる」(『謡曲』(1685)・丹後物狂、間狂言)

3. ある行為の結果生ずる不利益、負担など。

例、「所勞の人に迷惑をかけるのも本気ではないから」(『満韓ところどころ』(1909)、夏目漱石、一〇)

1は古代中国語の「迷惑」の2と類似し、13世紀前半には用いられたが、現代では用いられない。古代中国語の「迷惑」の1、3は日本語では用いられない。

日本語に入ると、「迷惑」は上記の2、3という2つの新しい意味が発生した。2は17世紀には用いられており、現代でもまだ用いられる。3は20世紀初には用いられており、現代でもまだ用いられる。

## [越] Mê hoặc (「迷惑」)

ベトナム語の古い用法に関しては、残念ながら Rhodes (1651)、HTC (1894-95) には見えない。現代ベトナム語の mê hoặc は Làm cho mắt tỉnh táo, mắt sáng suốt, mù quang tin theo (冷静さ、明晰さを失い、盲目なまま) という意味で用いられる。

例、Dùng tà thuyết mê hoặc (邪説を利用して惑わす)、Bị mê hoặc bởi những lời văn hoa bay bướm (甘言に惑わされる)

この意味は古代中国語の「迷惑」の3と同様である。よって、現代ベトナム語の mê hoặc の意味は古代中国語の「迷惑」の3に由来すると考えられる。

さらに、古代中国語の一部と類似し、新しい意味が発生しているパターンもある(10語)。例えば、「監督」、「始終」、「無縁」、「結束」、「合同」、「無理」、「猶予」などである。「猶予」を考察してみよう。

## [中] 猶豫

「猶豫」という漢語は、元来、「迟疑不决」（ぐずぐずして決断しない。躊躇する）という1つの意味しかない<sup>(7)</sup>。

例、「心猶豫而狐疑兮、欲自適而不可」（『楚辞』、离騷）

この意味は現代でもまだ用いられる。

例、「她又开始犹豫起来了」（彼女はまた躊躇し始めた）

[日] 猶予

日本語に借用されると、「猶予」は以下のように大きく4つの意味がある<sup>(8)</sup>。

1. うたがいためらうこと。ぐずぐずして、決定・実行しないこと。

例、「野心難改、情懷猶予」（『三教指帰』（797頃）下）

2. 日時を延ばすこと。許して実行を遅らせること。延引。遷引。

例、「まづまづ若殿様、暫く御猶予なし被下ませふ」（『歌舞伎・韓人漢文手管始』（唐人殺し）（1789）一）

3. 特に、執行猶予、徴兵猶予などをいう。

例、「私はまだ猶予中ですが検査を受けたって屹度駄目です。不合格のやうな健康を持つと、私軍隊生活の出来るやうな人が羨ましくってなりません」（『或る女』（1919）〈有島武郎〉後・三四）

4. 余裕。

例、「斯く貨財の進むに従ひ、人心亦大に猶予を得て」（『日本開化小史』（1877-82）〈田口卯吉〉一・一）

1は古代中国語の「猶豫」の原義と類似し、8世紀終りには用いられており、現代でもまだ用いられる。

例、「一刻の猶予も許されない」

よって、現代日本語における「猶予」の「うたがいためらうこと。ぐずぐずして、決定・実行しないこと」という意味は古代中国語の「猶豫」の原義に由来すると考えられる。

日本語に入ると、「猶予」は上記の2、3、4という3つの新しい意味が発生した。

2は18世紀終りには用いられており、現代でもまだ用いられる。

例、「債務者が支払いの猶予を求める」

3は20世紀初めに用いられたが、現代では用いられていない。4は19世紀終りに用いられたが、現代では用いられていない。

[越] Do dư (「猶予」)

ベトナム語の古い用法に関しては、残念ながら Rhodes (1651)、HTC (1894-95)



には見えない。現代ベトナム語の *do dự* は *Chưa quyết định được vì còn nghi ngại* (疑わしく不安で、決められない) という意味で用いられる。

例、*Sợ thất bại nên do dự* (失敗を恐れて、ためらう)、*Không một chút do dự* (少しもためらわない)

この意味は古代中国語の「猶豫」の原義と同様である。よって、現代ベトナム語の *do dự* の意味は古代中国語の「猶豫」の原義に由来すると考えられる。

最後は現代中国語と共通の意味・用法を持つパターンである (7語)。例えば、「意図」、「加速」、「麻醉」などである。

②現代ベトナム語における漢語の意味・用法においても古代中国語に直接由来するパターンが最も多い (31語)。例えば、*trụy lạc* (「墜落」)、*ôn tồn* (「温存」)、*cẩn thận* (「謹慎」) などである。*Trụy lạc* (「墜落」) を考察してみよう。

#### [中] 墜落

「墜落」という漢語は元来、以下のように大きく2つの意味がある<sup>(9)</sup>。

##### 1. 「下落；掉落」(落下する、落ちる)

例、「星有墜落、乃為石矣」(「顔氏家訓」(601-04)、歸心)

##### 2. 「衰敗；没落」(衰微する、没落する)

例、「初、公在真州、有倡單、流涕言其祖仕先朝為諫臣長、墜落至此、無面見日月」(宋・葉適、【中奉大夫太常少卿直秘閣至卿仕薛公墓志銘】)

1は7世紀初には用いられており、現代でもまだ用いられる。

例、「熱氣球墜落下來」(熱氣球が落ちてくる)

2は宋代には用いられたが、現代では用いられない。

#### [日] 墜落

日本語に借用されると、「墜落」は以下のように大きく2つの意味がある<sup>(10)</sup>。

##### 1. 高いところから落ちること。下に落ちること。

例、「是等の負担は皆自余の人民の頭上に墜落する者なり」(「経国美談」(1883-84)〈矢野龍溪〉後・二)

##### 2. 盛んな状態から急激に衰微、没落の状態になること。

例1、「徳川氏の失敗は封建制度の墜落となれり」(『日本文学史骨』(1893)〈北村透谷〉四) 例2、「全盛の頂上から一時に墜落してロシアに逃げ延び」(「春寒」(1921)〈寺田寅彦〉)

1は古代中国語の「墜落」の1と類似し、19世紀終りには用いられており、現代

でもまだ用いられる。

例、「事故機が海に墜落した」

よって、現代日本語の「墜落」の意味は古代中国語の「墜落」の1に由来すると考えられる。

2は宋代には用いられる中国語の「墜落」の2と類似し、19世紀終りには用いられたが、現代では用いられない。

[越] Trụy lạc (「墜落」)

ベトナム語の古い用法に関しては、残念ながら Rhodes (1651)、HTC (1894-95) には見えない。現代ベトナム語の trụy lạc は Sa ngã vào lối sống ăn chơi thấp hèn, xấu xa (卑屈な暮らし方を強えられる。墮落する) という意味で用いられる。

例、Lối sống trụy lạc (墮落した生活)、Làm trụy lạc thanh niên (青年を墮落させる)

この意味は宋代に用いられる中国語の「墜落」の2と同様であるが、「暮らし方は盛んな状態から急激に衰微、没落の状態になること」を指す場合のみを用いられる。よって、現代ベトナム語の trụy lạc の意味は宋代には用いられる中国語の「墜落」の2から発生したと考えられる。

一見してわかる様に「墜落」と「墮落」は形式的にかなり似通っている。そこで、現代日本語・現代ベトナム語・現代中国語における「墜落」と「墮落」の意味を比較してみよう。

現代中国語の「墜落」と「墮落」は意味が全く異なる。「墜落」は「落ちる」の意味を表わし、「墮落」は「品行が悪くなり、生活が乱れること」の意味を表わす。

現代日本語の「墜落」と「墮落」は意味が全く異なる。「墜落」は現代中国語の「墜落」の意味と同様に用いられ、「墮落」は現代中国語の「墮落」の意味と同様に用いられる。

現代ベトナム語の trụy lạc と đọa lạc は意味がほぼ類似している。現代ベトナム語の trụy lạc は「Sa ngã vào lối sống ăn chơi thấp hèn, xấu xa (卑屈な暮らし方を強えられる。墮落する)」の意味を表わし、đọa lạc は「ở trạng thái sa sút về đạo đức, phẩm cách (道徳、品行が悪くなる状態にある)」の意味を表わす。

以上を見ると、意味的には現代中国語・現代日本語の「墜落」と「墮落」は全く異なり、現代ベトナム語の trụy lạc と đọa lạc がほぼ類似していることから、ベトナム語においては、「墜」と「墮」の字形上の類似により「墜落 trụy lạc」と「墮落 đọa lạc」が混同して用いられ、その結果 trụy lạc、đọa lạc 共に現代中国語・現代日本語

の「墮落」の意味を持つに至ったとも考えられる。

次は全く新しい意味で用いられるパターンである（14語）。例えば、*dị nghị*（「異議」）、*vận chuyển*（「運転」）、*gia tốc*（「加速」）、*thù chung*（「始終」）などである。

最後は現代中国語と共通の意味・用法を持つパターンである（9語）。例えば、*ý đồ*（「意図」）、*vận động viên*（「運動員」）、*giai đoạn*（「階段」）、*ngghiêm trọng*（「嚴重」）などである。*Ngghiêm trọng*（「嚴重」）を考察してみよう。

[中] 嚴重

『大漢和辞典』（巻2：1179）によると、「嚴重」は以下のように大きく3つの意味がある。

1. 尊びおもんずる。尊重。

例、「諸侯以故嚴重之、争為用」（『史記』（紀元前91頃）、游侠、郭解傳）

2. 威嚴があつておもおもしろい。

例、「安為人嚴重有威、見敬於州里」（『後漢書』（420頃）、袁安傳）

3. きびしい。おごそか。堅固。確實。

例、「本朝上代有奉射的、最本式作法嚴重也」（『和漢三才圖會』、兵器、的）

この3つの意味の中で3の例文は日本の作品から引用されているので、3は古代中国語の「嚴重」の意味ではないと考えられる。

「嚴重」という漢語は元來、1.「尊びおもんずる。尊重」、2.「威嚴があつておもおもしろい」の意味がある。この2つの意味は現代では用いられない。現代中国語における「严重」は「深刻で重大である」という新しい意味が発生した。

例、「病情严重」（病状が重い）、「帶來严重的后果」（重大な結果をもたらす）

[日] 嚴重

日本語に借用されると、「嚴重」は以下のように大きく3つの意味がある<sup>(11)</sup>。

1. おごそかなこと。いかめしい様子。おそれおおいさま。げんじょう。

例、「伽藍を建立して一百余院の精舎を造る。其の症嚴微妙にして嚴重なる事无限し」（『今昔』（1120頃か）一・三一）

2. きびしいこと。ぬかりのないさま。嚴密。嚴格。げんじょう。

例、「武家斯くの如く申沙汰する上は、公家何ぞ異議に及ぶべきとて、已に事嚴重（ゲンゼウ）なりしかば」（『太平記』（14世紀後）二四・依山門噉訴公卿僉議事）

3. 神仏の靈驗があらたかな様子。げんじょう。

例、「恒例ハケ仏神事尽以断絶、嚴重数代法文皆以紛失、誠所驚聞食也」（『中右

記-天仁元年】(1108)九月一八日)

1は古代中国語の「嚴重」の2と類似し、12世紀には用いられたが、現代では用いられない。古代中国語の「嚴重」の1は日本語では用いられない。

日本語に入ると、「嚴重」は上記の2、3という2つの新しい意味が発生した。2は14世紀後半には用いられており、現代でもまだ用いられる。

例、「警戒嚴重」、「嚴重に点検する」、「嚴重な検査」

3は12世紀初には用いられたが、現代では用いられない。

[越] *Nghiêm trọng* (「嚴重」)

ベトナム語の古い用法に関しては、残念ながら Rhodes (1651)、HTC (1894-95) には見えない。現代ベトナム語の *ngghiêm trọng* は *Ở trong trạng thái gay go đến mức có nguy cơ gây ra tác hại lớn* (重大な損害を与える危険があるほど深刻な状態にある) の意味で用いられる。

例、*Hậu quả nghiêm trọng* (重大な結果)、*Tình hình rất nghiêm trọng* (状況はとても深刻だ)

この意味は現代中国語の「严重」の意味と同様である。よって、現代ベトナム語の *ngghiêm trọng* の意味は現代中国語と共通の起源を持つと考えられる。

①と②から見ると、現代ベトナム語における漢語の意味・用法においては古代中国語に直接由来するパターンが現代日本語より多い(31語>24語)。現代ベトナム語における漢語の意味・用法においては現代中国語と共通の意味・用法を持つパターンが現代日本語より多い(9語>7語)。よって、現代ベトナム語における漢語の意味・用法の方が中国語により近いと考えられる。

一方、現代日本語と現代ベトナム語における漢語の意味が新しい意味で用いられるパターンも少なくない。現代ベトナム語における漢語の意味・用法が古代中国語の一部と類似し、新しい意味が発生しているパターンは見当たらない。

③古代中国語において用いられる漢語の複数の意味が日本語とベトナム語に借用されると、何らかの意味が一つしか残らないようなパターンも少数見られる。何らかの意味が一つしか残らないことは日本語とベトナム語における意味が異なる場合しか見つからない。例えば、「手段」、「訪問」、「家族」、「想念」などである。日本語とベトナム語における意味が類似している場合は見当たらない。

古代中国語の「訪問」は1.「諮問する、教えを請う」、2.「(取材や調査などのため) 探し訪ねる。尋ねる、聞く」、3.「訪問する。訪れる」の意味がある<sup>(12)</sup>が日本

語に借用されると、「訪問する。訪れる」という意味しか残らないし、ベトナム語に借用されると、「(取材や調査などのため) 探し訪ねる。尋ねる、聞く」という意味しか残らない。

④ある言語ではより具体的な意味で用いられ、他の言語ではより抽象的な意味で用いられるというパターンもある。

日本語では、具体的な意味で用いられるが、ベトナム語では、より抽象的な意味で使われる場合である。例えば、「徘徊」、「始終」などである。

古代中国語の「徘徊」は具体的な意味（「さまよふ。たちもとほる。徘徊。裴回」）しかない<sup>(13)</sup>。日本語に借用されると、具体的な意味（「徘徊」は「あてもなく歩きまわすこと」）でしか用いられないが、ベトナム語に借用されると、非常に抽象的な意味（bòì hòìは「繰り返し心を揺り動かす感情や思いを抱えた状態にある（通常過去の出来事に対する感情を指す）」）で用いられる。

数量は少ないが、逆の場合もある。つまり、ベトナム語では、具体的な意味で用いられるが、日本語では、より抽象的な意味で使われる場合である。例えば、「運転」である。

古代中国語の「運転」は具体的な意味（「めぐる。はたらかす。圓轉。輪轉」）しかない<sup>(14)</sup>。日本語に借用されると、抽象的な派生義で（「資金などを活用すること」）用いられる場合もあるが、ベトナム語に借用されると、具体的な意味（vận chuyểnは「乗り物や動物で遠い場所まで重いものを運送すること」）でしか用いられない。

⑤現代日本語と現代ベトナム語で意味が類似し、古代中国語ともほぼ同じであるが、統語的には、異なる特徴を示すパターンもある。典型的な例としては、「関心」が挙げられる。

日本語の「関心」は「～に関心がある」、「～に関心を持つ」という言い方があるが、「\*～に関心する」という言い方はない。つまり、「関心」は「する」の形で動詞化することはできない。ベトナム語の quan tâm は動詞であり、多く “quan tâm đến +～” の形で使用される。“quan tâm đến +～” 「～に関心を持つ」を「\*～に関心する」とする誤用が時々目につく。また、文中の他の語との共起関係という観点から見ると、「発展」が挙げられる。ベトナム語では、kinh tế phát triển（経済が発展する）とも、phát triển kinh tế（経済を発展させる）とも言えるように、自動詞としても他動詞としても用いられる。一方、日本語では、自動詞として「経済が発展

する」とは言えるが、他動詞として「\*経済を発展する」とは言えない。

⑥現代日本語と現代ベトナム語で意味が類似し、古代中国語とほぼ同じであるが、ベトナム語では修辭的意義が発生するパターンもある。典型的な例としては「結婚」のような例である。

古代中国語の「結婚」は「夫婦の縁を結ぶこと。えんぐみ結婚。定婚」の意味で用いられる<sup>(15)</sup>。現代日本語の「結婚」と現代ベトナム語の *kết hôn* の意味は古代中国語とほぼ同じである。しかし、ベトナム語では、修辭的意義が発生している。ベトナム語では、*kết hôn* と意味の似かよった語として *cưới, lấy, có gia đình, lập gia đình* などがあり口語ではこちらの方を用いる。日本語では、「兄は結婚した」、「姉は結婚した」、「兄も姉も結婚した」、「彼らは結婚手続きをしなければならない、結婚届けを出さなければならない」と言い、中国語では、「哥哥已经结婚了」、「姐姐已经结婚了」、「哥哥和姐姐都结婚了」、「他们必须办理结婚手续、必须登记结婚」と言い、ベトナム語では、Anh tôi cưới vợ (lấy vợ) rồi. Chị tôi lấy chồng rồi. Anh chị tôi đều đã có gia đình (lập gia đình) rồi と言うのが普通で、最後の文は、Họ phải làm thủ tục kết hôn, phải đăng ký kết hôn のように *kết hôn* 「(結婚)」を用いる。ベトナム語には、二つの表現形式、書面語(書き言葉)と口語(話し言葉)があり、漢越語は書面語で用いられ、そのほかは口語で用いられる傾向がある。

⑦古代中国語では、非難する意味を表さず、日本語に借用されても、非難する意味を表さないが、ベトナム語に借用されると、非難する意味で使われるパターンもある。例えば、「異議」、「意図」などである。

古代中国語の「異議」は1.「他と異なった議論。不同意。異論。異見」、2.「裁判に於て法官の意見が一致しないときは各其所見を申べて異議を為すことを得。但し異議は甲・乙・丙の三説を限とし、多数に依つて決を採る」という2つの意味がある。1、2はともに非難する意味を表さない。日本語に借用されても、「異議」は非難する意味を表わさないが、ベトナム語に借用されると、*dị nghị* は「叱責する。責める」のような用法が発生し、結果として、非難する意味を持つに至った。

古代中国語では、非難する意味を表して、ベトナム語に借用されても、非難する意味を表わすが、日本語に借用されると、非難する意味で用いられないパターンもある。例えば、「指摘」などである。

古代中国語の「指摘」は1.「彼此とさし示すこと。また、誤謬を指して之を摘發

すること」、2.「指でつみとる。えらび用ひる」という2つの意味がある<sup>(16)</sup>。そのうち、1は非難する意味を表す。ベトナム語に借用されると、chi trich は古代中国語の「指摘」の1と同様に用いられる。よって、ベトナム語の chi trich も非難する意味を表す。日本語に借用されると、「指摘」は非難する意味で用いられない。

⑧古代中国語と現代日本語と現代ベトナム語で意味がほぼ類似しているが、現代日本語で用いられる際は音節の順序が異なるパターンもある。例えば、「制限」、「食糧」などである。逆に現代ベトナム語で用いられる際は音節の順序が異なるパターンもある。例えば、phóng thích (「放釈」)、ngoại lệ (「外例」) などである。

⑨現代日本語における漢語の用法が古い日本語から変化しているパターンもある。例えば、「関心」、「始終」などである。

現代日本語の「関心」は「関心する」という言い方はないが、19世紀・20世紀の日本語では「関心する」という言い方があった。

例1、「塵世の事に関心(クワンシン) する勿(なか)れ」(『花柳春話』(1878-79)〈織田純一郎訳〉付録・一)

例2、「観念の死ではなく、経験の死を知りたいのである。死の経験といふ最もおそるべきことについて関心するのである」(『死について』(1956-57)〈唐木順三〉一)

つまり、現代日本語の「関心」は「関心する」の形で動詞としては用いられないが、19世紀・20世紀の日本語における「関心」は「関心する」の形で動詞として用いられた。

### 3. おわりに

3言語(特に、ベトナム語)における漢語の対照研究は極めて少ないので、本研究はベトナム人日本語学習者が漢字を習得する際、或いは日本人ベトナム語学習者が漢越語を学ぶ際の一助となるであろうと考えて敢えて研究に踏み込んでみた。

本稿を通じて、ベトナム人日本語学習者が漢字を習得する際、或いは日本人ベトナム語学習者が漢越語を学ぶ際は誤用しないよう日本語・ベトナム語・中国語における漢語の意味的・統語的属性の異同を理解することができるだけでなく、3言語における漢語の意味的・用法的属性の変遷について初歩的考察の成果を述べるこ

とができたと思う。また、各言語における漢語を比較対照することにより、現代日本語・現代ベトナム語における漢語の特徴を抽出することができた。本稿をきっかけに、3言語（特に、ベトナム語）における漢語の対照研究が今後より発展することを望んでいる。

今後の課題としては、「関心」、「始終」のような漢語は古い日本語ではどのようなきっかけによって、「～する」の形で動詞として用いられるようになっているのか、現代日本語ではどのようなきっかけによって、「～する」の形で動詞として用いられなくなったのか、その理由を言語類型論的観点から探ってみたいと思う。

また、本稿では、和製漢語（例えば、「文化」、「科学」、「幹部」、「革命」、「広場」など）とベトナム人自身がつくった漢語（例えば、*khán giả*（「看者」）（観客）、*tiểu liên*（「小連」）（軽機関銃）、*súng trường*（「銃長」）（ライフル銃、小銃）、*bệnh cảm*（「病感」）（風邪）、*y tá*（「医佐」）（看護婦）、*lịch sự*（「歴史」）（礼儀正しい）など）についてはまだ言及していない。

和製漢語はベトナム・中国にいつ、どのように伝播し受容されるようになったのか、日本語・ベトナム語・中国語における和製漢語の意味と用法を比較対照したいと思う。一方、ベトナム語特有の「越製漢語」の語構成と意味・用法を明らかにすることも残された重要な作業であると思う。

#### 略号

[中] 中国語における漢語の意味・用法

[日] 日本語における漢語の意味・用法

[越] ベトナム語における漢語の意味・用法

【大漢和辞典】：諸橋轍次著者【大漢和辞典】（縮寫版）大修館書店 1976

Rhodes (1651) : Alexandre De Rhodes 1651, *Từ điển Annam-Lusitan-Latinh* (thường gọi là *Từ điển Việt - Bồ-La*), NXB Khoa học Xã hội 1991

HTC (1894-95): Huỳnh Tịnh Paulus Của 1894-1895, *Đại Nam Quốc âm Tự Vị*, Saigon

#### 〔注〕

- (1) Lê Đình Khản 2002, *Từ vựng gốc Hán trong tiếng Việt*, NXB Đại học Quốc gia Tp. Hồ Chí Minh, p.41-42
- (2) Lê Đình Khản 2002, *Từ vựng gốc Hán trong tiếng Việt*, NXB Đại học Quốc gia



Tr. Hồ Chí Minh, p.60

- (3) 諸橋轍次著者『大漢和辞典』(縮寫版)大修館書店 1976、卷7、p.1119
- (4) 編集委員会、国語辞典編集部『日本国語大辞典』(第二版)小学館 2000、卷1、p.855
- (5) 諸橋轍次著者『大漢和辞典』(縮寫版)大修館書店 1976、卷11、p.26
- (6) 編集委員会、国語辞典編集部『日本国語大辞典』(第二版)小学館 2000、卷12、p.1104
- (7) 主编罗竹风、汉语大词典编辑委员会·汉语大词典编纂处编纂『漢語大詞典』汉语大词典出版社 1986、卷5、上册 p.95
- (8) 編集委員会、国語辞典編集部『日本国語大辞典』(第二版)小学館 2000、卷13、p.364
- (9) 主编罗竹风、汉语大词典编辑委员会·汉语大词典编纂处编纂『漢語大詞典』汉语大词典出版社 1986、卷2、下册 p.1210
- (10) 編集委員会、国語辞典編集部『日本国語大辞典』(第二版)小学館 2000、卷9、p.214
- (11) 編集委員会、国語辞典編集部『日本国語大辞典』(第二版)小学館 2000、卷5、p.58
- (12) 主编罗竹风、汉语大词典编辑委员会·汉语大词典编纂处编纂『漢語大詞典』汉语大词典出版社 1986、卷11、上册 p.91
- (13) 諸橋轍次著者『大漢和辞典』(縮寫版)大修館書店 1976、卷1、p.815
- (14) 諸橋轍次著者『大漢和辞典』(縮寫版)大修館書店 1976、卷11、p.111
- (15) 諸橋轍次著者『大漢和辞典』(縮寫版)大修館書店 1976、卷8、p.1035
- (16) 諸橋轍次著者『大漢和辞典』(縮寫版)大修館書店 1976、卷5、p.216

(レー ゴック チャン テイン／本学大学院生)